

# 万一の災害を見越して備蓄に着手 立地を活かしたエリア防災も視野に

アークシティグループ、北海道の店舗から手始めに防災備蓄を開始



備蓄を始めた店舗のひとつ「アークシティダイマル」の備蓄物資の展示。ひとつ一つ陳列することで、災害時にいち早く来店客や地域住民に手渡しできるように配慮している。物資の常時展示で来店客の認知度も高まっているが、今後は地域の催しに参加して日本ソフトインフラ研究センターによる物資配布のサポートも受けるなどして、エリア防災につながる周知活動に取り組んでいく構えだ

北海道を中心に山口県、高知県にグループ展開するアークシティグループ（本社オフィス・東京都港区、洪大輔代表取締役）は、日本ソフトインフラ研究センターの防災備蓄プロジェクトに協賛するかたちで12月26日から防災物資の備蓄を開始。北海道で営業する2店舗での防災備蓄を手始めに、保存水、携帯トイレ、アルミブランケットの備蓄拡充を進めている。

「山口県と高知県に店舗があるが、今年はその近隣県で豪雨災害が起こり、実際に被災地を目にすると大変なことになる。また北海道では9月に胆振地震が発生して全道が停電。地震の時は江差の店舗にいたが、丸1日も停電するといふ大変な事態だった。どのグループ店舗も災害と無関係ではなかったため、まずは早急に北海道の店舗で備蓄を始めようということになった」と話すのは、同グループ営業企画本部の黒沢裕本部長だ。同グループは北海道の江差エリアで



「アークシティダイマル」  
北海道檜山郡厚沢部町美和1251-3

設置台数428台（パチンコ288台、パチスロ140台）来店客の半数以上が年配層で占め、地域客に長年親しまれている。函館発のご当地バーガーレストラン「ラッキービーエロ」が併設しているのも特徴のひとつ

創業し、備蓄を始めた店舗のひとつ「アークシティダイマル」は長年にわたって地域の憩いの場として親しまれてきた。平成5年に江差エリアと地理的に近い奥尻島を震源とする北海道南西沖地震が発生した際には、企業として被災地にトラックで物資調達するなどの支援活動を積極的に行っていたため、そうした経緯も今回の取り組みの根底にあったという。

備蓄を始めた店舗では「もし使うことになれば早く渡せるように」と防災物資をひとつ一つ梱包から出して展示。来店客からは好意的な意見が寄せられており、早くも認知につながっている。「江差の店舗の近隣にはスーパーやドラッグストア、ホームセンターなどの施設があるためお互いに協力できればエリアの避難拠点として機能できる」と黒沢本部長。立地を活かしたエリア防災も視野に入れ、日本ソフトインフラ研究センターによる物資配布などでまずは地域への周知活動に取り組んでいきたいとしている。